

2019年台風被害 ～東京の生協で力を合わせて～ 被災者支援活動通信 第1号

2020年1月20日発行 東京都生活協同組合連合会
〒164-0011 東京都中野区中央5-41-18

台風19号被災者支援ボランティア・プログラムへの支援活動

支援に至るまでの背景

2019年の9月10月に発生した台風15号・19号等による影響により、東日本の各地で記録的な大雨となり、岩手県・宮城県・福島県・栃木県・茨城県・千葉県・長野県など各地に大きな被害をおよぼしました。

特に台風19号では71の河川で128か所が決壊し、お亡くなりになられた方も含め、多くの方が被災されました。

亡くなられた方々にお悔みを申し上げますとともに、被災された方々に心よりお見舞いを申し上げます。

東京でも伊豆諸島や多摩川流域等で被害が発生し、それを受け、東京都と東京ボランティア・市民活動センターによって「東京都災害ボランティアセンター」が10月15日に設置され、東京都生協連はその構成団体として、様々な団体と連携し、都内の被災者支援活動を行ってきました。台風19号ではとても広域で大きな被害が発生しており、被災地への支援の手が回り切れていない状況があることから、「東京都災害ボランティアセンター」では都内だけでなく都外の地域への支援も行っていくことになりました。

「東京都災害ボランティアセンター」では現地調査を行う中、関係団体との調整により、福島県いわき市への支援プログラムを実施することを決定しました。

東京都生協連は「東京都災害ボランティアセンター」の決定を受け、会員生協のみなさんに協力を募り支援プログラムへ支援を行うことにいたしました。

東京都災害ボランティアセンターとは

東京都災害ボランティアセンターは、災害により東京が被災し、ボランティアやNPO等の支援活動が必要になった場合に、東京都と東京ボランティア・市民活動センター（TVAC）が協働設置し、TVACと様々な市民活動団体等と協働で運営することとなっています。東京都生協連はこの構成団体として様々な団体とともに支援活動を行っています。

東京都災害ボランティアセンターはこちらをご覧ください。

ホームページ saigaivc.tokyo/



活動期間

いわき市では市内を流れる2つの河川が氾濫し、住家・非住家合わせての被災棟数は7000棟を超え（2019年12月現在）、長期にわたる支援活動の必要性が考えられます。当面、2019年11月下旬～2020年1月末を活動期間とし、その後については現地や東京都災害ボランティアセンター構成団体との調整を踏まえ、実施を検討します。活動は週2日、毎週火曜日と金曜日、11月26日（火）～1月24日（金）（年末年始の1週間は未実施）の計8週間、全16回実施します。

ボランティア活動参加団体

公募は行わず、東京都災害ボランティアセンター構成団体やアクションプラン推進会議参加団体等を中心に呼びかけました（現在申込締切）。生協からの参加予定者は現在のところコープ災害ボランティアネットワークからの申し込みを含め11生協のべ75名（コープみらい3名、パルシステム東京11名、東都生協8名、生活クラブ生協4名、東京保健生協3名、住宅生協1名、こくみん共済coop2名、コープデリ連合会12名、生活クラブ連合会8名、コープ災害ボランティアネットワーク4名、日本生協連1名、東京都生協連18名）。

活動場所・内容

福島県いわき市。いわき市災害ボランティアセンターを通じて泥出しなどのボランティア活動やピースボート災害支援センター、浄土宗福島教区浜通り組青年会などとともにチラシ配布やサロン活動などのコミュニティ支援を実施します。1月現在は主にコミュニティ支援活動を中心に行っています。



家庭菜園の泥出し作業

泥が20センチ以上積もっているところも……。一人では到底運び出せない量の土を運び出しました。



個人宅の車庫をお借りしての喫茶

温かい飲み物とホットケーキなどを提供。小さなお子さんや男性の方など様々な世代の方が集い、ほっとしたひと時を過ごしていただきました。



生協車両大活躍

コープみらい・パルシステム東京・東都生協から車両を貸与していただき、ボランティアの輸送と機材の搬送に大活躍。

会員生協からの車両貸与

期間中会員生協から車両を貸与していただき、参加するボランティアの輸送と機材の保管と搬送に大活躍しています。

- パルシステム東京：11月28日から2月28日まで
- 東都生協：12月6日から2月28日まで
- コープみらい：12月23日から2月28日まで

活動スケジュール

- ・ボランティア活動実施前の毎週水曜日、事前説明会を実施。当日の活動内容の説明
- ・上野駅に集合し特急ひたち1号でいわき駅へ。徒歩でいわき市災害ボランティアセンターへ移動
- ・いわき市災害ボランティアセンターでのオリエンテーション後、移動してボランティア活動実施
(各班に分かれて喫茶、チラシ配布等分担して様々な活動を行う)
- ・活動終了後、いわき市災害ボランティアセンターに道具を戻して活動終了
- ・いわき駅へ移動し、特急ひたち24号にて帰京

参加者からの声

サロン支援活動を振り返って

パルシステム東京 佐藤 照英

高低差の大きい土地柄のためか被害も来訪された方も様々な状況でしたが、皆さん心身ともに疲労を重ねている事に、私自身にも同県人という思いがありながらも、何が良くて、何が良くないのか、寄り添うことの難しさを実感し、また、多角的な支援活動が必要であり、そのための人員確保が急務と感じました。そのような中、「東都生協」「パルシステム福島」「パルシステム東京」の車両が並んでいる情景は仲間同士のつながりを実感し、それ以上に、ご年配の方や子ども達の逞しさが素晴らしい事だと感じました。

いわき市災害ボランティアに行く

生活クラブ連合会 野崎 雅利

はじめまして。こんにちは。ありがとう。ようこそ。ひさしぶり。寒いね。また来ます。…ボランティアで出会う人同士の挨拶言葉。
初めての参加なのに、想いは響き合い連鎖する。
災害は人の命を奪うし暮らしを壊すから避けたいものだけれど…
ボランティアって楽しい。いろんな人に逢えるから。自分はずっとどこかで誰かに支えられているから、今回はほんの少しのご恩返し。だから…
一人じゃないことを伝えにまた、行こうと思う。